

故郷に気を配る。

街を歩けばすぐに立ち話が始まる。

配達区域のほとんどが小藤さんの知り合いだ。

この町で生まれ育って71年、誰が住んでいるかわかっている。

朝ポストに新聞が残っていたら、昼にまた様子を見に行く。

異変があれば、民生委員をしている妻に連絡をする。

新聞販売所の他に、木工職人、劇団員、

交流センター館長、布部の未来を考える会、

手作り行灯で町おこしなど、様々なことに取り組んでいる。

故郷を何とかしたいという思いが、小藤さんを突き動かす。

最近、若者が移住してきて、我が子が帰ってきたように喜んだ。

地域の顔役だからこそ、新聞配達も引き受けた。

所長として配達員を気遣いながら、

自身もバイクで配達をする。

元々バイク乗りだったから、運転はいつも気持ちがいい。

「調子はどうだい？」

バイクに乗っているといつも風が語りかけてくる。

「布部の未来はどうかいな？」と小藤さんも風に尋ねる。

新聞を配ることは、気を配ること。